

議 題： 第1回 PF-UA 幹事会
日 時：2012年 5月29日(火) 13:30 ~ 15:40
場 所：神谷町線トラススペース KEK 東京事務所
司 会：佐藤会長 書 記：朝倉
出席者：佐藤、朝倉、植草、篠原、朴、腰原、田中、千田 村上、足立
議事内容：
(1)佐藤会長の挨拶
(2)PF-UA と PF との覚え書きについて PF-UA の会議開催の旅費支援について、財政の許す範囲でおこなうこと。これまでの会議に対してプラスα（小委員会）程度であれば、大丈夫だろう。 事務局への負担増—特に会員増化による名簿管理 基本的には合意
(3) 名簿の吸い上げと PF-UA の会員になることの拒否 PF マガジンで連絡し、問題がある人は連絡してもらい、連絡リストから除く。いずれにせよ。会員は全員である。
(4) 幹事、運営委員会はユーザーが主体。小委員会には PF スタッフにはいつていただく。 戦略委員会は腰原先生、行事は千田先生、利用は篠原先生がそれぞれ委員長となる。 教育委員会をお願いする小林先生は再雇用であるので、近藤先生と連絡取りつつ佐藤先生が確認する。
(5) PF シンポジウム実行委員会の PF-UA 側委員である千田先生と PF 側委員長である雨宮健太先生と実施時期等を話し合う。 佐藤会長より学会や科研費からの協賛による支援が受けられる可能性があり、検討する。 朝倉庶務幹事より 企業展示、広告について、PF-UA の仕事なので、小委員会の活動をよろしく願いたい。(PF-UA 活動資金)
(6) アンケートについて、案文は3月のシンポジウムの直後のものであり、その後の PF の検討と努力で、30日源(3600時間) 2月半ばまでの運転可能になってきた。 アンケートの作り直しを篠原利用幹事をお願いする。6月の運営委員会で議論する。 旅費については、共同利用である以上 0として運転に回すことはできないだろう。具体的な支給方式(距離により傾斜配分)、教育や若手育成を前面に出す。 有料優先ビームタイムについては、さらに検討がなされ、科研費等の外部資金なら何でもよいのではなく、国家プロジェクトに対して優先有料ビームタイムを配分する。運営委員会で議論し、最終的に PAC で議論する。 要望書 全員参加の PF-UA であるから、運営委員会で了解を得たら、全員の意志と言うことで署名は要らないだろう。 機構長、文科省に PF-UA として ERL の支援と PF の運転のお願いをする。 PF-UA、ERL のポスター、Power Point を作製、 ERL の早期実現に研究会等を開催 Laser との棲み分け。
以上